

# 佐々町立佐々中学校 学校だより(HP)

## 「ときめき」

第 15 号 令和3年9月27日(月) 文責 校長 井上博之

### ○ 長崎県学力調査、全国学力学習状況調査の結果について

7月14日に県学力調査(小5の国・算、中2の国・数、中3の英)の結果、9月1日に全国学力調査(小6の国・算、中3の国・数)の結果が、それぞれ報道等で発表されました。本校の結果の概要については以下のとおりです。

#### ☆県学力調査の結果

中2 国語(県平均値より少し下) 数学(県平均値より少し下)

中3 英語(県平均値より上)

#### ☆全国学力・学習状況調査の結果

中3 国語(全国・県平均値より上) 数学(全国・県平均値より上)

ご存じのとおり、各学力調査の結果はあくまで“学力”の一部であり、県・全国との比較も、あくまで平均値による比較です。平均値の数点の差で一喜一憂したり、順位を気にする必要はありませんが、大切なのは、この結果をどのように解釈して、今後どう生かすか?ということです。

各教科の各問題について、自分はどこができて、どこができなかったのか?を知ることができます。(各教科の個人結果も一人ずつ返却します)それぞれの設問に対して理解できている部分と課題を各自が把握し、今後の取組に役立ててもらいたいと思います。

また、3年生の全国調査においては、学力調査と共に学校生活・家庭生活に関する質問紙調査の結果も出されています。学力調査結果と合わせて分析すると、学年全体の特徴や課題が見えてきます。

#### ☆生活状況調査(質問紙調査)の結果(一部)

※ 各質問の回答について、肯定的な回答の割合を県・全国の平均値と比較し、より高い結果=○ 低い結果=△ で示しています。

- 毎日同じくらいの時刻に寝る
- 自分に良いところがある
- 将来の夢や目標を持っている
- 自分でやると決めたことは、やり遂げようとするようにしている
- 難しい事でも、失敗を恐れなくて挑戦している
- 人が困っているときは、進んで助けている
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
- 人の役に立つ人間になりたいと思う
- 学校に行くのは楽しい
- 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表せる
- 友達と協力するのは楽しいと思う
- 地域の行事に参加している
- 学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思う

- △ 携帯電話・スマートフォンやコンピュータは持っているが、家の人との約束はない
- △ 家で計画を立てて勉強する
- △ 学校の授業時間以外に平日、土日の1日当たりの勉強時間（2時間以上が少ない）
- △ 新聞を読んでいる
- △ 平日スマートフォンやコンピュータを勉強のために使っている時間（全体的に少ない）

【結果から考えられること】

総じて、家庭での規則正しい生活ができている生徒が多く、自己肯定感や思いやり、友達との協働意識や互助意識も高く、学校生活に満足している生徒が多い。また、地域や社会への関心があり、地域行事への参加も積極的であることがわかりました。

さらに、コンピュータ等 ICT 機器の学習への有効性は感じているが、実際に勉強のために使っている生徒は少なく、通信機器の利用については家での約束事がない生徒が多い。また、計画的な家庭学習や1日の学習時間の確保については課題があることが推察できます。

この他、各教科の結果と関連のある質問紙調査を比べると、次のことがわかります。

☆国語で正答率が高かった問題として、

- 場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する（問題3の二）
- 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ（問題3の四）
- 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く（問題4の四）

等がありました。これは、質問紙調査で肯定的な回答が高かった次の3つの質問と関連があると思われます。

- 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる
- 学級では、学校生活をより良くするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている
- 学級活動における話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる

☆数学で正答率が高かった問題として

- 具体的な場面で、一元一次方程式を作ることができる（問題2）
- 関数の意味を理解している（問題4）
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できる（問題7の(2)）
- 相対度数の必要性和意味を理解している（問題8の(2)）
- データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できる（問題8の(3)）

等がありました。問題2, 4, 8(2)は、基礎基本の定着がわかります。さらに、今回の問題の中で最も正答率が低かった問題8(3)では、県や全国平均の2倍の正答率でした。その理由は、次の質問での肯定的な回答の高さで説明できます。

- 数学の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える

☆英語に関する質問では、○英語の勉強は好き。○2年時の英語授業で、英語で話したり書いたりして自分自身の考えや気持ちを伝えあうことができた。と回答した割合がともに高く、興味関心の高さや授業での活動が結果につながっていることが推察できます。

このように、普段の授業での学習活動の積み重ねや、学級での話し合い活動、その他のあらゆる活動を通して、生徒の学力が向上していくことが具体的にわかってきます。私たち教職員も、今回の学力調査、質問紙調査の結果を生かし、子供たちの学力向上と、生活の質(QOL)の向上に向けて、創意工夫をしながら取り組んでいきたいと思います。